

外国にルーツをもつ子どもを 取りまく学校や家庭における 多言語コミュニケーション

2021年1月
30(土)・31(日)
オンライン開催

本フォーラムでは、外国にルーツをもつ子どもの言語コミュニケーションの課題や、多文化化・多言語化が進む日本社会において求められる支援や教育のあり方を、現場での取り組みを共有しつつ様々な観点から考えます。

1日目 1月30日(土) 10:00~14:00

開会の挨拶と趣旨説明 佐々木優香(宇都宮大学特任助教/筑波大学博士課程)

セッション1 講演 <10:15~12:00>

○若林秀樹(宇都宮大学客員准教授)

「移民の子どもの教育ニュー・ノーマル～進む散在化に私たちはどう向き合うか～」

セッション2 研究報告part1 <12:30~14:00>

○飯田朋子(十文字学園女子大学非常勤講師/筑波大学博士課程)

「技能実習生と日本語母語話者のコミュニケーションについての研究—地域社会における多文化共生と、それを支える教育を目指して—」

○坂口(山田)有芸(兵庫教育大学特定一般職員)

「外国にルーツをもつ子どもの日本語指導に対する認識—日本の小学校における経験に着目して—」

○ムラモト エリカ マリア(群馬大学講師)

「Empowering 1.5 Generation Multilingual Youth Through 12 Factors: What we can do here and now」

2日目 1月31日(日) 10:30~14:00

セッション3 実践報告 <10:30~12:00>

「日本に於ける移民子弟(ブラジル人)のANBEC教育・職育支援現状と今後—公立・ブラジル人学校児童生徒への現状活動からの考察」

○栗田政彦(日伯経済文化協会〔ANBEC〕専務理事)

○中嶋ひろ(ANBEC教育・職育コーディネータ/1級キャリア・コンサルティング技能士)

○森和重(ANBEC理事/在日ブラジル学校協議会監事)

セッション4 研究報告part2 <12:30~14:00>

○ハサノフ フィルダウス(筑波大学博士課程)

「New normalな時代の留学生支援におけるメンタリング—メンターとメンティの相談内容に注目して—」

○佐々木優香

「在日ブラジル人家庭における言語使用—茨城県常総市での親子間コミュニケーション調査をもとに—」

○片山奈緒美(桜美林大学非常勤講師/筑波大学博士課程)

「コロナ禍で可視化された外国人コミュニティに関する—考察—トルコ系クルド人の支援者へのインタビューから—」

総括と閉会の挨拶 明石純一(筑波大学准教授)

連絡先: 佐々木優香(yk.sasakiway24@gmail.com)

主催: 令和2年度筑波大学社会貢献プロジェクト「国際都市つくばの新しい国際化施設—定住外国人児童に対する『職育』プログラム」/筑波大学「知」活用プログラム「コロナ時代の人の越境をめぐる政策と技術」(代表:明石純一)

参加方法:

QRコードから1/28までにお申込みください→
お申込み後Zoomリンクをお送りします

